

～令和 8 年度～

地域未来創生スクール

第 2 期生 募集要項



一般財団法人

地域総合整備財団〈ふるさと財団〉

Japan Foundation For Regional Vitalization

目次

01

スクール概要

P2

02

実践型講座について

P3,4

03

プロセスデザイン
研修について

P5,6

04

講義日程

P7

05

募集要領

P8

06

スクールの魅力

P9

07

受講生の声

P10

スクール概要

1 目的

- ・多くの地方自治体が人口減少や産業の衰退などの地域課題を抱えている中で、課題解決のノウハウをもつ人材を育成することが急務となっています。
- ・ふるさと財団は、これまでの事業運営の中で蓄積してきたリソース・ノウハウを活用して一流の講師陣で構成する「地域未来創生スクール」を開講します。
- ・当スクールでは地域の未来を担う実践力を備えた人材を育成することにより、地方自治体をはじめ地域づくりを担う民間の皆さまに貢献いたします。



2 特徴

(1) 実践力の高い講座の提供

地域づくりに高い知見をもつ学識者や経験豊富な実務家等の講師陣から地域課題に対するアプローチ手法を学び、地域課題に即した対応力を身につける「**実践型講義**」と「**プロセスデザイン研修**」を提供します。

(2) 一流講師陣との人的ネットワークの形成

地域経済活性化、関係人口・移住、都市政策等、様々な分野で活躍されている一流講師陣と受講生が**対面形式**で一同に会し、講師陣・受講生相互のコミュニケーションを図ることにより、人的ネットワークが形成でき将来の大きな財産につながります。



3 主催者メッセージ

末宗 徹郎（一般財団法人地域総合整備財団 理事長）



「地域未来創生スクール」は地域課題を抱える地方自治体職員等を対象として、地域づくりを担う実践的な人材育成を目的とする講座です。

第1期生と講師陣の熱量には目を見張るものがありました。第2期生も全国各地から「やる気と熱意」にあふれる方々にぜひご受講いただきたいと考えておりますので、奮ってご応募ください。

【特別講義】



テーマ：離島から学ぶ 生き残るための行財政改革
講師：大江 和彦（島根県海士町長）

島の現状は日本の未来であると同時に、島にこそ日本の未来を創るヒントがあると考えます。戦後70年間で人口が3分の1に減少し、財政再建団体への転落予測を受けた海士町が、生き残りをかけて挑んできた改革と戦略から、これからのまちづくりに必要なことを考えます。

【総論】



テーマ：地域づくり論
講師：小田切 徳美（明治大学 農学部 教授）

「地域づくり」とは、地域の新しい仕組みを「つくる」ことを意味しています。現代に即して言えば、「人口が減少しても、地域で幸せに生き続けること」を住民の力、関係人口等の外部の力、自治体の力を糾合して推し進めることです。その体系と具体策を論じます。



テーマ：農山漁村発イノベーションを現場から読み解く
講師：図司 直也（法政大学 現代福祉学部 教授）

第1次産業を主要な産業としてきた農山漁村では、多様な地域資源や分野、主体を組み合わせ、新しい事業の創出を目指す「農山漁村発イノベーション」の動きが立ち上がり、政策的な支援も始まっています。その現場での動きを捉え、求められる要点を考えます。



テーマ：観光まちづくりの実践と展望
講師：梅川 智也（國學院大学 観光まちづくり学部 教授）

観光による地域の活性化・再生を進める際、地域を上手くマネジメントする「観光まちづくり」という考え方が重要となります。その要諦は①状況把握、②戦略策定、③魅力創出、④滞在化・平準化、⑤保存・活用、⑥組織・人材、⑦ブランド形成、⑧財源確保、⑨危機管理などですが、中でも地域の将来「ビジョン」、それを実現させる「組織」、そして組織を維持し、ビジョンを実現するための「財源」の3つについて分かり易く解説します。



テーマ：食を活かした地域ブランディング
講師：金丸 弘美（食環境ジャーナリスト・食総合プロデューサー）

農産物のブランド化には食のテキスト化と参加型の食のワークショップが大きな力になります。食材の品種、栽培歴、栄養価、食べ方までを提案するものです。商取引や子どもたちの教育や体験農業などで、具体的に語ることができるようになり訴求力も高まる地域ブランディングの仕組みを、事例をもとに説明します。



テーマ：地域資源を活用した循環型のまちづくり
講師：河野 公彦（inc1合同会社 代表）

波佐見焼で人気を博す町で抱えていた積年の課題が廃石膏のリサイクルでした。しかもそれに伴うリスクも高まっていました。サステナブルが求められる時代でどのように循環型のまちづくりをしてきたのか。その取り組み事例を中心に全貌、意味、ノウハウ等を多面的・多目的に学び、他地域でも応用できる講義にします。

しごと

**テーマ：コミュニティ再生と地域運営****講師：若菜 千穂（NPO法人いわて地域づくり支援センター 常務理事）**

東北の農山村地域を対象に住民主体の地域づくりや地域運営組織形成の支援を行っています。住民自治のあり方は地域それぞれで、そのため地域運営のあり方も異なります。住民主体の地域づくりを進めるために求められる地域の捉え方や目指す姿、多様な主体同士の信頼関係に基づく丁寧な対話のはじめ方など具体的な支援プロセスのつくり方について現場視点でお話しできればと思います。

**テーマ：地域づくりの新しい仲間・関係人口****講師：田中 輝美（島根県立大学 地域政策学部 准教授）**

関係人口という言葉聞いたことがあるでしょうか。その地域に住んでいなくても、地域に関わり、一緒に地域づくりに取り組む外にいる仲間です。講義では、関係人口と地域の具体的な協働事例のほか、移住・定住、交流・観光との違いや連携について学びます。

**テーマ：人口減少時代の都市政策****講師：野澤 千絵（明治大学 政治経済学部 教授）**

本格的な人口減少時代の中では、人口を奪い合うのではなく、人口密度を維持・向上しながら、街の世代交代を進め、広域的にも各地域の生活がそれなりに成り立つ形の都市政策が必要です。本講義では、立地の観点もふまえた移住者支援政策・空き家活用・土地利用コントロール等の講義を進めていきます。

**テーマ：歴史・文化資源を活用した持続的なまちづくり****講師：藤原 岳史（株式会社NOTE 代表取締役）**

歴史・文化資源を活用して、地域の暮らし文化を100年先の未来に繋げるためのまちづくりを全国で展開しています。「豊かな国土づくり」に向けて、仕事や経済、文化や観光、まちづくりや開発の概念をこれからの日本の暮らしを描きながら皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

**テーマ：脱炭素・ネイチャーポジティブなまちづくり****講師：重藤 さわ子（事業構想大学院大学 教授）**

地域の持続可能戦略は大きな課題です。本講義では「グローバルな環境変化と地域」という文脈から地域における脱炭素とネイチャーポジティブの意義について解説します。さらに、それらをまちづくりにつなげていくための方法論を現在の課題と共に考えます。

**テーマ：公民共創によるまちづくり****講師：足立 文（株式会社日本経済研究所 執行役員 公共デザイン本部上席研究主幹）**

今、地域は、人口減少等様々な課題を抱えており、全てに行政が対応できる時代ではなくなっています。一方で、地域企業や住民等が担い手となって、地域の資源を活かして様々なサービスを提供する動きが出ています。公民連携は、時代やニーズに応じて進化する手法です。これからのまちづくりを支える手法を考えてみませんか。

プロセスデザイン研修

それぞれの分野で活躍している著名な実務家（メイン講師）が行ってきた事例を題材に、地域課題を解決するプロセスを学びます。
実務家と共に、知見の深い討論者がセットになって、下記の3ステップで行っていきます。

01

事例分析講義

【120分×4テーマ】

実務家の説明や討論者との掛け合いにより、事業成功のポイントや困難に直面した際の解決方策を学びます。また受講生も疑問をぶつけていくことで、一緒に事例をひもといていきます。

02

現地視察

【1泊2日×1テーマ】

4テーマから1テーマ(1地域)を選択して、現地視察を実施

実務家の案内のもと、事例分析講義で学んだ地域を視察し、事業推進の主体となった地域住民や地方自治体等のリアルな声を聴き、事業プロセスの理解を深めます。

03

発表

【90分×4テーマ】

実務家から出された「テーマ」に対して、グループごとにまとめ、発表をします。議論の中で地域課題への理解を深め、受講生の自治体が抱える課題解決に繋がる手法を身に着けます。

プロセスデザイン研修担当講師紹介

【テーマ：しごと】地域資源活用によるビジネス創出
～いなかビジネス教えちやる～

現地視察先
山形県 庄内町



実務家講師：畦地 履正（株式会社四万十ドラマ 代表取締役）

いなかでも「こんなことをしてる・こんなことができる」という希望に対する答えは現場にあります。あしもとにあるものをもう一度見直すことによって宝物が生まれた瞬間を、皆さんと一緒に体感していきます。そして今度は「皆さんの宝物」を一緒に探しにいきましょう。

討論者：関司 直也（法政大学 現代福祉学部 教授）

四万十での経験を起点にして、各地の現場に赴き、ひとと資源を活用しながら、ビジネス創出に導く畦地講師の実践プロセスに学びます。

その要点は何か、受講生の皆さんの足元を見つめ直すヒントを一緒に探りましょう。



【テーマ：ひと】関係人口創出・移住
～私たちはローカルで幸せを見つける～

現地視察先

島根県 益田市 他



実務家講師：指出 一正 (株式会社ソトコト 代表取締役 ソトコト編集長)

「観光以上、移住未満の第三の人口」と称される関係人口。各地で人口減少・高齢化が進むなか、地域づくりの担い手としての存在に期待が集まっています。関係人口とは何か？ 関係人口が生まれることによる地域の変化は？ どう関係人口や移住者を呼び込むかなど、2012年にスタートした島根県の関係人口講座「しまコトアカデミー」をはじめ、全国の関係人口創出と移住促進の好例をもとに、実態と背景、傾向をわかりやすく解説していきます。

討論者：小田切 徳美 (明治大学 農学部 教授)

関係人口は、わかりやすくかつ奥深い存在です。だれでも関係人口が地域に必要であることはわかりますが、なぜそうなのかなかなか説明できません。関係人口を世の中にはじめて提唱した実践家講師とともに、「なぜ」、「どうしたら」を徹底的に掘り下げます。



【テーマ：まち】応援の連鎖がまちを変える

～日南市・油津商店街にみる新しい地方創生のかたち～

現地視察先

宮崎県 日南市



実務家講師：木藤 亮太 (株式会社油津応援団 取締役)

油津商店街(宮崎県日南市)の再生事業の話題を中心に、地方創生、まちづくり、地域活性化について分析し、人口減少の中でどのような手法が有効なのかを紐解きます。再生しない“再生事業”がはじまって12年。行政事業が先導した4年、民間の力で自走しはじめた4年、そしてコロナ禍を乗り越え新たなステージを目指した4年。それぞれのプロセスはどうデザインされ、実践され、変化に適応していったのかについて意見交換します。

討論者：根岸 裕孝 (宮崎大学 地域資源創成学部長 教授)

実務家講師は「まちなか再生請負人」として、衰退の一途であった日南市油津商店街を見事に蘇らせました。家族で地域に飛び込み、多くの人を繋ぎ、夢をカタチにするチカラとはどのようなものなのかを体現したプロセスについてやりとりを通じてより具体的に引き出していきます。



【テーマ：まち】自治体毎の空き家対策を考える

～実践の中から見つける、あなたのまちの空き家対策～

現地視察先

熊本県 玉名市



実務家講師：有江 正太 (NPO 法人空き家コンシェルジュ 代表)

空き家問題は、地域毎に課題や有効な対策は大きく異なります。地域課題に即した空き家総合相談窓口構築やプラットホーム構築、自治体組織再編等、自治体毎の支援を専門団体として実施しております。その事例を基に他地域に活かせる空き家対策を共に考えます。

討論者：野澤 千絵 (明治大学 政治経済学部 教授)

空き家対策は、地域特性・担い手の状況等でアプローチが全く異なります。これまで数多く空き家対策の実践経験を有する講師との討論を通じて、受講生の皆様が自らのまちに合った空き家対策を見出し、実践への第一歩を踏み出す機会にしてください。



第1回	6/3 (水)			オリエンテーション 開講式 10:00-12:00	<講義1> 小田切 徳美 13:00-14:40	<講義2> 野澤 千絵 14:55-16:25	<特別講義> 大江 和彦 16:40-18:10	交流会
	6/4 (木)		<理事長講義> 末宗 徹郎 9:15-10:15	<講義3> 若菜 千穂 10:30-12:00	<講義4> 金丸 弘美 13:00-14:30	【プロセスデザイン研修】 <事例分析講義> <テーマ①> 有江、野澤 14:45-16:45		
第2回	7/30 (木)			【プロセスデザイン研修】 <事例分析講義> <テーマ②> 畦地、図司 10:00-12:00				交流会
	7/31 (金)	【プロセスデザイン研修】 プレゼン準備 9:00-10:20		<講義5> 田中 輝美 10:30-12:00	<講義6> 藤原 岳史 13:00-14:30	<講義7> 図司 直也 14:45-16:15		
第3回	8月下旬 ~10月中旬 (木~金) 1泊2日	【プロセスデザイン研修】 <現地視察> (テーマごと、各班受講生8名) ◆木藤班 (宮崎県日南市) ◆指出班 (島根県益田市 他) ◆畦地班 (山形県庄内町) ◆有江班 (熊本県玉名市)						
第4回	11/19 (木)			<講義8> 梅川 智也 10:30-12:00	<講義9> 重藤 さわ子 13:00-14:30	<講義10> 河野 公彦 14:45-16:15	<講義11> 足立 文 16:30-18:00	
	11/20 (金)	【プロセスデザイン研修】 プレゼン準備 9:00-10:20		【プロセスデザイン研修】 <発表・講評> (全員テーマ①~④に参加) テーマ① 木藤、根岸 10:30-12:00				閉講式 交流会
第5回	1月下旬 ~ 2月上旬				13:30~17:30 地域再生マネージャー事業実績報告会			

※地域再生マネージャー事業実績報告会に参加し、全国各地の特色ある地域づくりの取組みを学ぶことができます。
 ※講義終了後に複数回受講生と講師との間で交流会開催を予定しております。

(3) 開催場所

- 講義・事例分析・プレゼン発表準備

会場：全国町村会館 会議室 他

- プロセスデザイン研修 (現地視察)

4グループに分かれて、それぞれテーマに沿った地域を訪問・視察します。

(4) 修了者認定について

原則、次の2つの基準を満たした場合、修了証を授与します。

- ①実践型講義の3分の2以上に出席すること。
- ②プロセスデザイン研修に出席すること。

6

募集要領

(1) 募集人数 30名程度

(2) 対象者 地域づくりを経験している地方自治体職員、地域づくりを担う民間事業者等

(3) 応募書類

①参加申込書【様式第1号】

②経歴書【様式第2号】

※様式は、地域総合整備財団〈ふるさと財団〉ホームページからダウンロードをお願いいたします。

(4) 応募方法

令和8年1月30日（金）必着で、連絡担当者より参加申込書【様式第1号】及び経歴書【様式第2号】を地域総合整備財団〈ふるさと財団〉地域再生部事業推進室へメール又は郵送にて提出してください。

(5) 受講生の決定

応募書類をもとに受講生を選考し、**令和8年2月下旬**を目途に、応募者の連絡担当者および応募者のメールアドレス宛に採否を通知します。

(6) 経費について

①受講料 : 1名あたり 20万円（教材費を含みます）

②交通・宿泊費：研修地（東京・現地調査先）までの往復旅費の交通費、研修中の宿泊費及び食事代は派遣元負担または自己負担となります。

(7) その他

・研修を受講する際に必要となる宿泊場所については、原則各自で予約をしていただきます。ただし、プロセスデザイン研修の現地視察に係る宿泊は、事務局で予約を行います。

（プロセスデザイン研修の現地視察に参加する上で、前泊・後泊を行う場合については、受講生にて宿泊場所の手配をお願いいたします。）

・交通・宿泊費の精算は、各自でご手配願います。

スクールの魅力を紹介

第1期生の受講の様子とともに、
スクールの魅力をご紹介します

実践力の高い講座



経験豊富な講師と双方向のやりとり
ができ、質疑応答の時間には、
具体的な事業相談をする場面も
見られました。

現地視察



地域で活躍されている方々から直接
お話を伺い、実際に現場を自分の目
で確かめることで、座学では得られ
ないリアルな学びを体感できます。

グループワーク



異なる地域や立場の受講生同士が、
課題に対して議論を重ねていきま
す。自分の地域では見えなかった
新しい発想や気づきが生まれます。

交流会



講師や受講生全員と、立場や地域を
超えて語り合い、交流を深められ
るので、スクールが終わってからも続
くつながりが生まれます。

そのほかの
スクールの様子は
こちらから



地域未来創生スクールの第1期生のリアルな声をお届けします！



はさみちろう
長崎県波佐見町
企画情報課

むらかわ けいた
主任 村川 恵太さん

Q1 地域未来創生スクールを受講しようと思った理由を教えてください。

行政職員として地域づくりに貢献したいという強い思いから、本スクールを受講しました。

素晴らしい講師陣から学び、地域課題の解決などに活かし、町の活性化に繋がっていきたいです。

Q2 講師や他の受講生との交流について、印象に残っていることがあれば教えてください。

講義外での講師や他受講生との交流が印象に残っています。そこでできたつながりがきっかけで、たまたま長崎県に来られた講師の方から連絡をいただき、長崎県内の別の受講生も含めて、再びお会いする機会もありました。スクール外でも、真面目な話と楽しい話をする関係性を築くことができ、また同じ長崎県からの受講生とは、今後何かおもしろいことを一緒にやりたいねと色んな構想を頭の中で描き、夢を語り合っています。

Q1 地域未来創生スクールを受講してよかったと思う点を教えてください。

学術的な基礎を押さえつつ各地の実践にも触れ、地域づくりの具体像が描けました。脱炭素や商品開発など、自分がこれまで直接関わってこなかった分野も横断して学び、「社会の中における大津町の位置づけ」を俯瞰できるようになったと思います。一過性の話題を追うより、住民や関係人口との関係を着実に積み上げる仕組みづくりが要だと学びました。

Q2 講義を受けてからの変化や、学んだことを活かして今後取り組みたいことがあれば教えてください

住民との丁寧な対話を重ね、身近な縁を起点に関係人口とのつながりを形にしていきたいです。大津町は今、全国的にも稀な変化の過渡期にあると思います。だからこそ、地元の方々と関係人口になり得る方々の双方の視点で町を見つめ直し、この町に必要なことを考えながら、小さな一歩を積み重ねていきたいです。内外の視点を併せ持つ地域おこし協力隊として、無理なく続く関係づくりを目指して取り組んでいきたいと思っています。



おおづまち
熊本県大津町
総合政策課

広報 PR コーディネーター
(地域おこし協力隊)

とう ゆりえ
藤 友里江さん



いわくに
山口県岩国市
都市計画課

ひろつ けいすけ
主任 廣津 圭介さん

Q1 地域未来創生スクールのプロセスデザイン研修（事例分析 講義・現地視察）を受講しての感想を教えてください。

具体的な実践手法を学ぶことで自分の地域での実現可能性を高く感じました。現地調査では地域住民と連携、活動する姿に触発され、熱い思いが沸き起こりました。この貴重な学びを生かし、岩国市の未来を拓くために力を尽くしたいと強く思っています。

Q2 地域未来創生スクールからの学びでよかったと思う点を教えてください。

最大の収穫は、第一線で活躍する講師陣から直接学ぶ機会を持てたことです。特に、現地視察を通じて体験した商店街の活性化事業は、理論を超えた実践力を高める貴重な経験となりました。地域課題の解決策を模索する中で、全国各地の参加者との交流を通じて新たな視点やアイデアを得ることができ、まちづくり施策の充実につながる道を感じました。

<問い合わせ先>

一般財団法人地域総合整備財団〈ふるさと財団〉

地域再生部 地域再生課 事業推進室 担当：丸山・原田・松田

住 所 ： 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-8-1 麹町クリスタルシティ東館 12F

電話番号： 0 3 （ 3 2 6 3 ） 5 7 3 6

メールアドレス： saisei-ka@furusato-zaidan.or.jp